

## アジア発、グローバル時代のリベラル・アーツ

グローバル教養学部は、オーストラリア国立大学（ANU）と共同で、全て英語による4年間の学びの成果として、立命館大学とANUの二つの学位を取得できるデュアル・ディグリー・プログラムを展開します。これにより、海外でも認められる国際通用性の高い大学教育を実現し、多元的でグローバルな学びを経験できる世界水準の知的修練の場を提供します。

ヨーロッパに源流のあるリベラル・アーツの知的蓄積を継承しつつ、世界の捉え方や歴史認識をアジアの文脈から再定義し、教養の学びに新たな変化を起こします。

グローバル時代のリベラル・アーツと実践を結びつけ、世界のさまざまな領域に新たなビジョンを提示し、国を、社会を、文化をつなぐ人材を恒久的に育成していきます。



### グローバル教養学部開設記念式典 新入生代表挨拶より抜粋 —「知識」と「知性」の違い—

私たちは授業で「知識」と「知性」の違いを学びました。「知識」を持つことは、色々なものを学び、覚えること、そしてそれを様々な状況に当てはめることです。これも、学びを修める者として、ものすごく大事なことです。では「知性」とは何でしょうか？ 知性を持つということは、物事を主観的に見ずに様々な知識を持ってそれをつかって疑問に立ち向かう力を得ることです。

解決法を考えると、その知識を生かして、現在の問題の根本を見つけることができる「知性」を持ち合わせていることが大切です。オープンマインドを持ち、様々な分野の考えを結びつけながら考え、そこから問題のもとと深いところに潜む原因を見つけることが必要です。

GLA では、このように物事を客観的に捉え、世界という大きな舞台上で様々な問題の解決法を導き出せる柔軟性を身に付けたいと思います。



### ご寄贈者：分林保弘 様 (株式会社日本M&Aセンター 代表取締役会長・創業者)

自身が学生だった1960年代当時から、「これからはグローバル化の時代だ」と肌で感じていました。大阪いばらきキャンパスの開設、グローバル教養学部の設置は立命館大学の英断だと思っています。分林記念館が、学生たちにとって住みやすく、異文化交流ができる場となるとともに、学生と教員、学生同士、地域との交流も図っていただきたいと思います。

#### 【プロフィール】

1943年8月生まれ、京都府出身。立命館大学経営学部卒。  
父は観世流能楽師、母は裏千家茶道教授。自身は3歳で能の初舞台を踏む。  
大学在学中の1965年、『全米能楽公演ツアー』を企画、実行。全米35州を巡り、20以上の大学で4か月にわたり能楽公演を行う。当時のアメリカ社会・経済に強く影響を受けて帰国。  
1966年、外資系コンピューターメーカーの日本オリベッティに入社。  
1991年に「株式会社日本M&Aセンター」を設立。1992年、代表取締役社長に就任。  
2007年12月に東証一部上場へと同社を導く。



## 立命館のグローバル化、加速します。

主として、グローバル教養学部の日本人学生と留学生が生活と学びを共にする国際寮の機能を有するとともに、OICで学ぶすべての学生・院生のキャンパスライフを豊かにするための空間が設けられています。

### 5F 寮室など

2階南側から5階の各階に学生の寮室200室  
および国際寮の共用部（トイレ・シャワールーム・共同キッチン・リビング・トランク  
収納スペース）を配置。  
5階には海外からの教員滞在用の寮室も。



### 4F

### 3F

### 2F

### 日本庭園・茶室 日本文化ギャラリー



### 1F Noh-Theater 能舞台 (多目的ホール) 国際交流機能など

